

山口市議会報告 第7号

山口維新の会

発行責任者

山口市議会議員 竹中一郎

<http://takenakaichiro.com/>

〒753-0251 山口市大内千坊2丁目16-5

徳地地域の活性化に

チャンスあり!

～地域の魅力・価値を見詰め直してみませんか?～

私たちの地域には、住んでいるものにとっては何気ない暮らしや風景でも、外の人々の目で眺めたときに、思いもかけない「魅力」や「価値」につながる可能性があります。

私たちが、今の暮らしに誇りを持ち、その取り組みを発信していくことで、多くの方々によって、その「魅力」や「価値」が掘り起こされていき、地域に新たな活路が導かれ、地方創生につながるかもしれません。

こうした「魅力」や「価値」につながる、私たち地域の資源を見詰め直し、誇りをもって発信することで、新たな地域活性化策を見出せるのではないのでしょうか。

まずは、徳地地域の地域資源を見つめ直してみましょう。

ふれあいパーク大原湖



徳地地域には、南大門や岸見の石風呂、月輪寺薬師堂や法光寺阿弥陀堂の仏像、柚木慈生温泉や口ハス島地温泉、森林セラピー基地や重源の郷、行列のできる飲食店など、地域内に「魅力」や「価値」が点在しており、それぞれが重層的に絡み合い連携することで、更なる地域活性化が期待できるのではないかと考えます。



やまぐちサッカー交流広場



やまぐちサッカー交流広場は、スポーツ活動を実施する施設という役割だけでなく、スポーツを通じた交流を促進することにより、中山間地域の活性化を図ることも担う施設として設置されています。

年間5万6千人の利用があり、本施設を一つの起点に地域全体の活性化を図ることのできるポテンシャルを有する施設です。

適切な森林管理で多面的機能の発揮を!

1.防災の観点から

●適切な森林管理で土砂災害が防止できる

- ・森林を適切に経営管理することにより、木材生産のほか、国土の保全、水源の涵養(かんよう)、地球温暖化の防止などの働きを発揮し、地域に様々な恩恵を与えてくれます。

●新たな森林経営管理制度の活用

- ・経営管理が行われていない森林(私有林)について、山口市が森林所有者の委託を受け経営管理をすることや、林業経営者に再委託することにより、林業経営の効率化と森林の適正管理を促進します。

2.中山間地域の活性化という観点から

●林業の成長産業化で中山間地域は元気になる

- ・伐採・造林など林業施業の集約化や路網の整備、担い手の支援、木材消費の促進などによって、林業は活性化します。



令和元年 第4回定例会での質問と答弁

交通政策について

問 中山間地域については、持続可能な移動手段を確保するため地域住民の意見を施策に生かすべきではないのか。

答 徳地地域において、今年度から地域づくり協議会が中心となり「徳地の公共交通を考えるプロジェクト」を立ち上げ、ワークショップ形式での会議、高齢者が集う行事に出向いてのヒアリング等によって、持続可能な移動手段の確保のために月に1回のペースでの協議を進められている。こうした会議に関係職員も参加し、必要に応じて交通アドバイザーも派遣しながら支援している。当面は、各地区の状況把握を行われるようだが、今後も引き続き職員を協議に参加させ、様々な情報提供や必要に応じて専門的なアドバイスも行いながら、地域と行政が連携して、地域のニーズに合った移動手段の確保に努める。

問 山口・小郡両都市核間の一体感の醸成が必要であり、そのために比較的充実している公共交通の現状を周知することや市が政策的にAI等の新たな技術を導入し、公共交通のさらなる利便性を高めることが必要ではないか。

答 両都市核間の路線バスについては等間隔で運行するピッチダイヤが導入され、利用しやすい運賃割引制度もある。また、バスの位置情報がスマートフォンやパソコン等で確認できるバスロケーションシステムを導入し、その情報を電子掲示板で見ることのできるデジタルサイネージ（電子看板）が新山口駅と山口駅に設置されている。今後さらなる周知のために新たな媒体の活用も検討していく。

また、今後、県や先進技術を持つ事業者と連携し、鉄道、バス、タクシー等、既存の公共交通とカーシェア等の新たな手法を組み合わせ、一つのシステムで検索、予約、決済できる「MaaS」（マース）の構築についても検討したい。

農業政策について

問 農業従事者の不足や農業の担い手不足が問題となるなか、新規就農者への支援はどうなっているのか。

答 農地、住居、農業用機械・施設、栽培技術、資金といった課題に対し、積極的に支援を行っている。農地についてはやまぐち農林振興公社から借り受けた農地の賃借料を5年間を上限に助成する制度を実施している。住宅を賃貸される場合には営農開始後3年間、家賃の一部を助成する本市独自の制度により経済的負担を軽減する支援策を実施している。農業用機械・施設については営農に必要な施設及び機械器具の整備に係る経費の補助等を実施、栽培技術については研修に係る経費の助成や指導農家への支援も実施している。資金については就農前の2年間を準備型、就農後の5年間を経営開始型として、最大で年間150万円が助成される農業次世代人材投資資金制度や新規就農資金等の各種融資制度の活用をすすめている。こうした各種支援策を分かり易いものとするため、来年度からは新規就農者支援パッケージ制度を創設する予定としており、まずは阿東地域のあぶトマトを産地の対象として、県やJA等の関係機関と連携しながら準備を進めている。

防災ガイドブックについて

問 改訂作業にあたり市民にとって「見やすい」「分かりやすい」「使いやすい」といったことが大切だが、どのような工夫をしているのか。また、進捗状況はどうか。

答 改訂に伴い工夫した点は、タイムラインを新たに追加し、市民の皆様の情報収集や取るべき避難行動などを段階的に分かりやすく表示、災害種別による避難所の使用可否一覧の掲載、ハザードマップの索引図を冊子の表面に表記することとしたこと。現在の進捗状況は、今年度末配布を目指し作業を進めているが、状況により来年度当初に配布の可能性もある。

山口情報芸術センター(YCAM)と連携した人材の育成について

問 YCAMが取り組んできた人材育成の成果をどう評価しているのか。

答 次世代を担う人材育成に向けた教育プログラムを開発するプロジェクト「未来の山口の授業」や、メディア・テクノロジーの持つ可能性に触れることで子どもたちの発想力や想像力を育む「スポーツハッカソン for Kids」を市内の小学校で展開している。YCAMが制作したオリジナル作品「コロガル公園」シリーズについては、スピーカーや映像などのメディア・テクノロジーを埋め込んだ公園において、子ども自らが遊びを通じて考え、想像力を育む体験を提供するプログラムであり、これまで20万人を超える多くの子どもたちに参加いただくとともに、キッズデザイン賞を受賞するなど、優れた取り組みとして高い評価を獲得し、本市における文化芸術の裾野を大きく広げてきた。